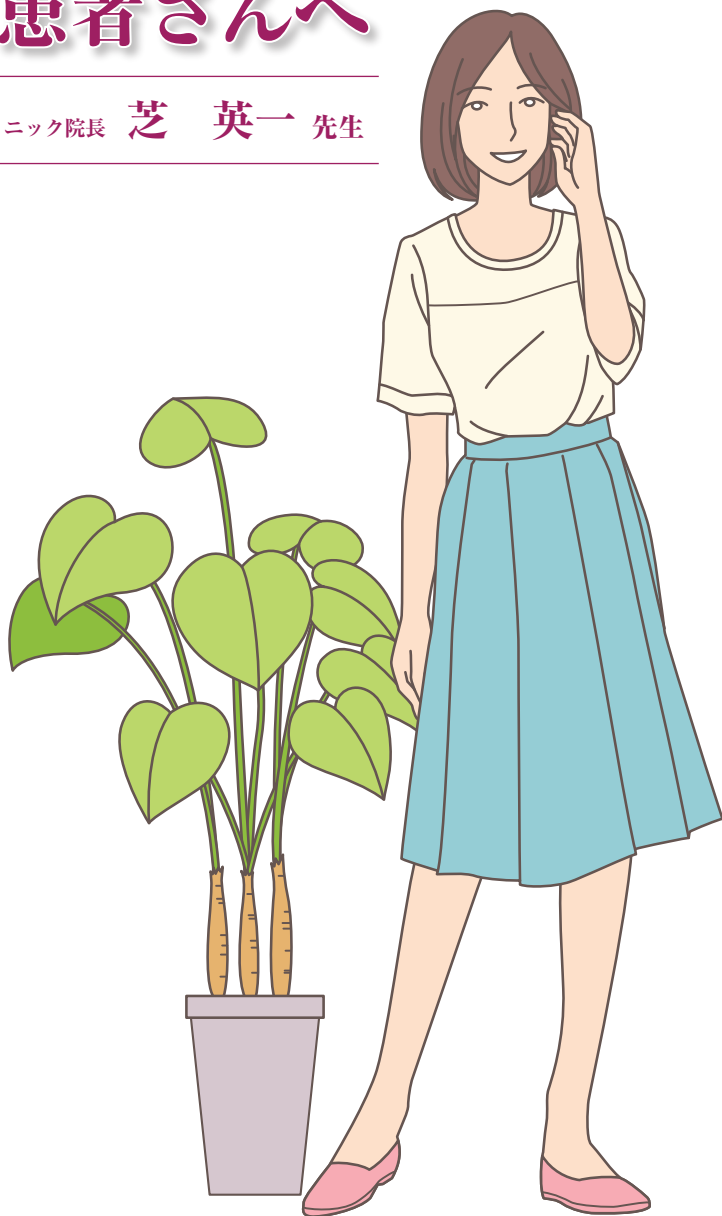


リュープロレリンの治療を受ける患者さんへ

監修/大阪プレストクリニック院長 芝 英一 先生



目次

はじめに	1
閉経前乳がんの内分泌療法について	2
内分泌療法は、どのような治療法ですか？	2
リュープロレリンについて	4
「リュープロレリン」とは、どのような薬ですか？	4
「リュープロレリン」による内分泌療法は、 どのような乳がんに対して効果が期待できるのですか？	6
「リュープロレリン」の投与方法とスケジュールを教えてください	7
「リュープロレリン」投与を開始する前に注意することはありますか？	8
「リュープロレリン」による治療中は、生理が止まるのですか？	8
将来、妊娠を希望しています。どうすればよいのでしょうか？	9
副作用について	10
どのような副作用がありますか？	10
注射部位について	12
注射後に注意していただきたいこと	12
注射部位の変化	13
セルフチェック	14
毎月1回、日を決めて乳房の状態を確認しましょう	14
治療スケジュール	16

はじめに

「乳がん」は女性に最も多いがんで、本邦では国立がん研究センターの全国がん罹患モニタリング集計によると2020年で10万人以上※の女性がかかっています。近年の医療の進歩は目覚ましく、中でも乳がんは非常に研究の進んでいるがんのひとつで、多くの有効な治療法が確立されています。たとえば、乳がんの中には女性ホルモンの影響を強く受けるタイプがありますが、そのような乳がんに対しては、内分泌療法という治療がよく効くことがわかっています。

とはいっても、治療を開始する前は、「どんな治療をするのだろうか?」「副作用が辛いのではないか?」と疑問や不安が尽きないのも、ごく自然なことです。

この冊子では、あなたに内分泌療法を安心して受けていただけるように、リ्यूプロレリンの効果や副作用、治療スケジュール、治療中の注意点などを紹介しています。本冊子が、これからのあなたの治療を支えるもののひとつとなれば、これに勝る喜びはありません。

わからないことや不安なことがあれば、なんでも遠慮なく医師や看護師、薬剤師にご相談ください。私たち医療スタッフは、あなたと一緒にがんを治療していく仲間なのです。

大阪ブレストクリニック 院長 芝 英一

※国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」より作成

閉経前乳がんの内分泌療法について

Q 内分泌療法は、どのような治療法ですか？

A

エストロゲン(女性ホルモン)に作用する薬を使ってエストロゲンの分泌やはたらきを抑えることで、がん細胞の増殖を抑制する治療法です。

「ホルモン受容体陽性」の患者さんで、効果が期待できます。

乳がんの60～70%は、エストロゲンのはたらきによって、がん細胞が増殖する「ホルモン受容体陽性」の乳がんです。このタイプの乳がんは、乳がん細胞にあるエストロゲン受容体にエストロゲンが結びついて、がん細胞の増殖を促します(右図)。

内分泌療法とは、薬でエストロゲンの分泌やはたらきを抑えることにより、がん細胞の増殖を抑制する治療法です。

内分泌療法の効果が期待できるのは、細胞内にエストロゲン受容体などが一定量以上ある「ホルモン受容体陽性」の患者さんです。

これらの受容体が少ない患者さんでは、内分泌療法の効果はあまり期待できないので、その他の治療が行われます。

内分泌療法は、副作用が比較的穏やかという特徴があり、手術後の再発抑制や転移・進行がんの進行抑制に効果があります。

閉経前乳がん細胞の増殖イメージ

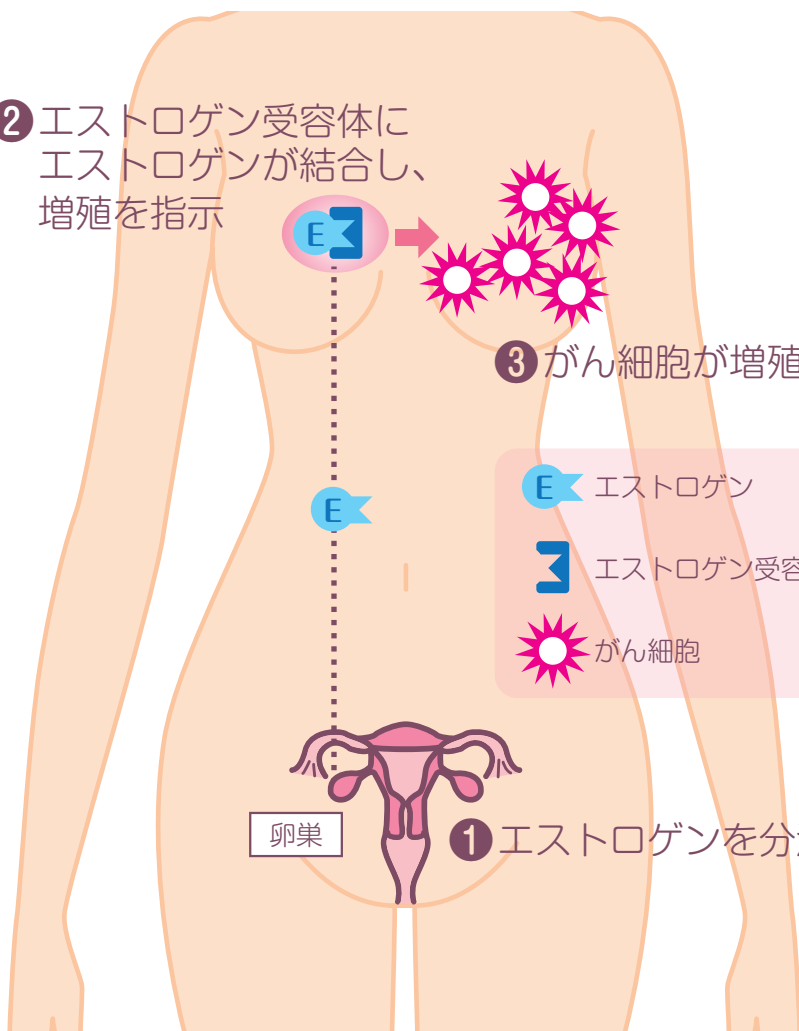
② エストロゲン受容体に
エストロゲンが結合し、
増殖を指示

③ がん細胞が増殖



卵巣

① エストロゲンを分泌

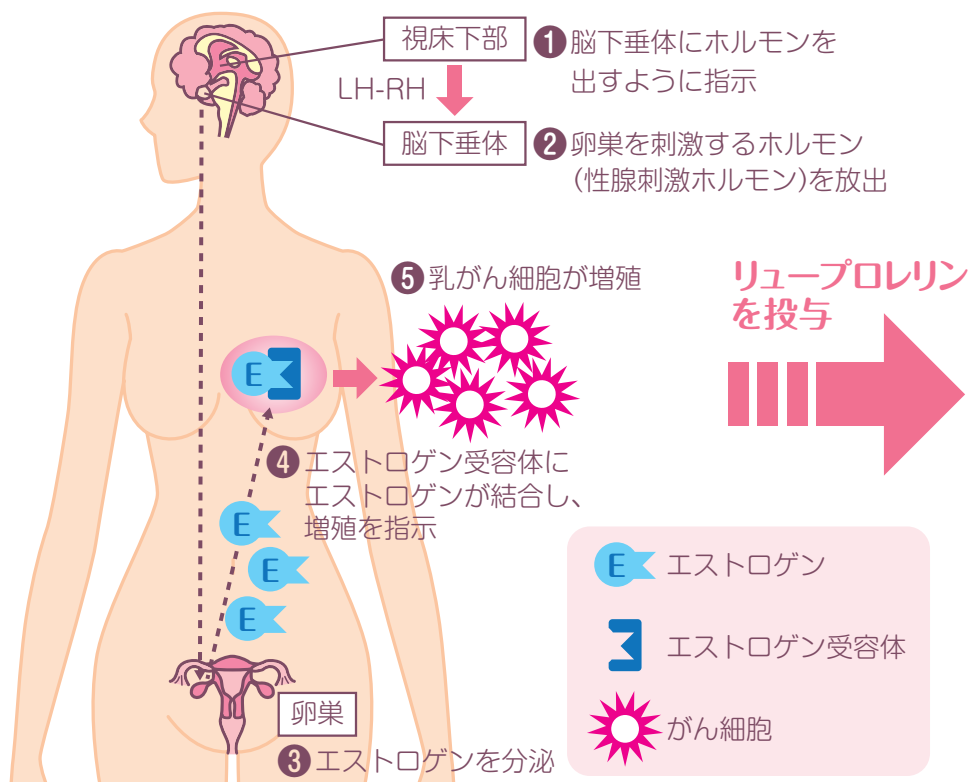


リュープロレリンについて

Q「リュープロレリン」とは、どのような薬ですか？

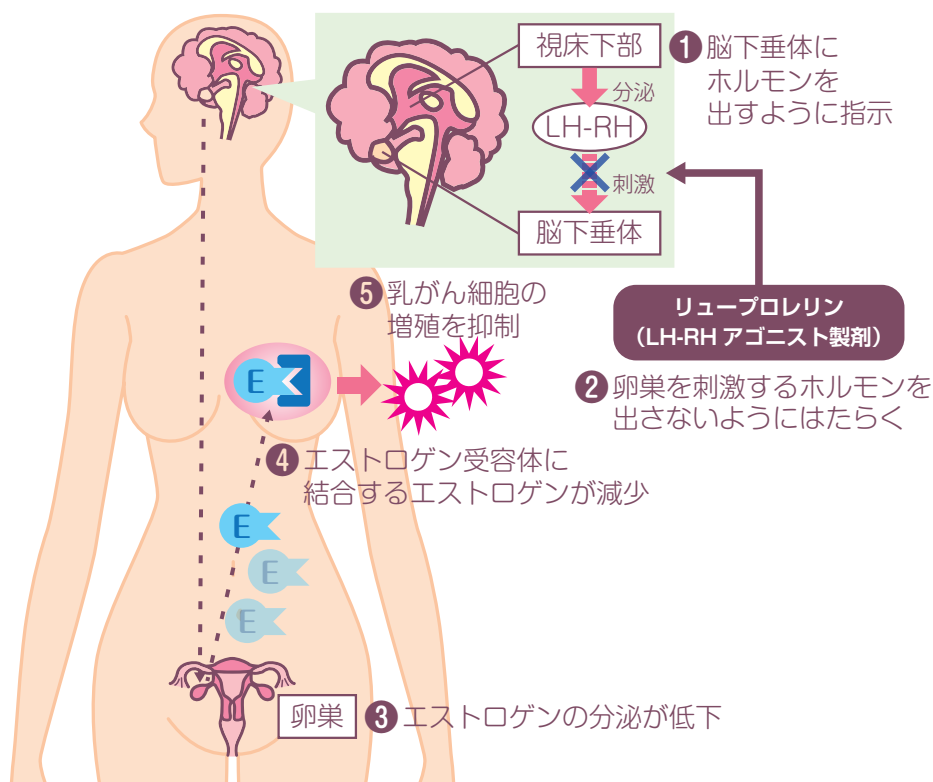
A 卵巣で作られるエストロゲンの分泌を低下させて、乳がん細胞の増殖を抑える薬です。

閉経前乳がんにおけるホルモン環境



閉経前には、主に卵巣からエストロゲンが分泌されます。リュープロレリンは、エストロゲンの分泌を促す黄体化ホルモン(LH)や卵胞刺激ホルモン(FSH)の合成を阻害します。その結果、卵巣からエストロゲンの分泌が低下し、乳がん細胞の増殖を抑える効果を発揮します。

閉経前乳がんに対するリュープロレリンの作用



リュープロレリンについて

Q「リュープロレリン」による内分泌療法は、どのような乳がんに対して効果が期待できるのですか？

A リュープロレリンは、乳がん手術後の再発予防、または診断時にすでに進行している閉経前乳がんの患者さんに効果が期待できます。

●乳がん手術後の再発予防に

手術でがんを取りきったと思われる状態であっても、体内には目に見えない小さながんがひそんでいる可能性があります。リュープロレリンの継続投与によりエストロゲンの分泌を低下させ、がんの増殖を予防します。

●乳がんの進行予防に

進行した乳がんや転移した乳がんの患者さんにリュープロレリンを投与すると、がんが縮小する効果があり、症状の緩和が期待できます。



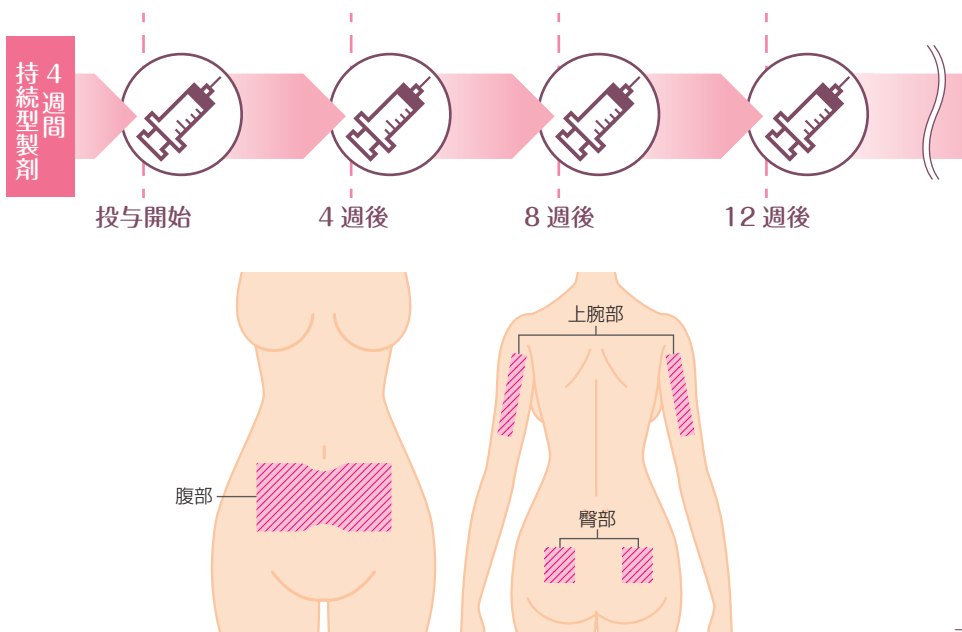
Q「リュープロレリン」の投与方法とスケジュールを教えてください

A

リュープロレリンは、4週間に1回、腹部、上腕部^{でんぶ}、臀部のいずれかの皮下に注射します。

決められたスケジュールどおりに投与されてこそ十分な効果を発揮することができます。スケジュール帳や巻末のメモを活用し、治療予定日にきちんと来院してリュープロレリンの注射を受けるようにしましょう。

リュープロレリンの治療スケジュール



リュープロレリンについて

Q 「リュープロレリン」投与を開始する前に注意することはありますか？

A

リュープロレリンは、妊娠または妊娠している可能性のある方、授乳中の方には投与できません。

リュープロレリンによる治療中は必ず避妊するようにしましょう。なお、避妊する場合は、ピルなどのホルモン剤を使用せず、他の方法で行いましょう。

Q 「リュープロレリン」による治療中は、生理が止まるのですか？

A

治療中は生理が止まりますが、治療が終了すると、ほとんどの患者さんで月経が再開します。

リュープロレリンによる治療中はエストロゲンが低下するため生理は止まりますが、治療が終了すると、ほとんどの患者さんで月経が再開します。ただし、月経が再開するまでの期間は、人によってさまざまです。一方、治療中に閉経を迎え、月経が再開しない患者さんもいらっしゃいます。

Q 将来、妊娠を希望しています。
どうすればよいでしょうか？

A 妊娠のタイミングについては、医師とよく相談しましょう。

内分泌療法は比較的長期にわたって行われるため、将来、妊娠を希望される場合は、あらかじめ主治医にその旨を伝えておきましょう。妊娠のタイミングについては、医師とよく相談して決めることが大切です。

日常生活で注意してほしいこと

- ・バランスのよい食事をとりましょう
- ・食べ過ぎないように注意しましょう
- ・脂肪分、塩分は控えめにしましょう
- ・緑黄色野菜、ビタミン類、食物繊維を十分にとりましょう
- ・焦げた部分やカビの生えた食べ物は避けましょう
- ・アルコールやタバコはほどほどにしましょう
- ・適度なスポーツを取り入れて、気分転換を図りましょう



副作用について

Q どのような副作用がありますか？

A

主な副作用として、更年期様症状、注射部位の腫れ・痛みなどがあります。更年期様症状のうつ状態があらわれることもあります。

●投与初期の副作用

初回投与後まもなくエストロゲンが一時的に増加するため、骨や関節に痛みがあらわれることがあります。

●主な副作用

- エストロゲンの低下に伴う更年期様症状…11 ページ
- 注射部位の腫れ・痛み…12 ページ
- エストロゲンの低下に伴い骨量が減少するため、骨折しやすくなる
- 腰痛、背部痛、関節痛

●注意すべき副作用

まれにはありますが、以下のような副作用が生じることがあります。このような症状を感じたら、すみやかに医師や看護師にお伝えください。

- から咳、息切れ、発熱など
- 呼吸困難、全身紅潮、じんましん、顔やくちびるの腫れ、ものが飲み込みにくいなど
- 全身の倦怠感、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなるなど
- 口や舌の渇き、体重の急激な減少、手足のしびれ、ものが見えにくくなるなど
- 激しい胸部痛、激しい頭痛、足のしびれ、息苦しさなど

更年期様症状について

一般的に女性は、40歳代になると卵巢機能が徐々に低下し、ホルモンの分泌が少なくなります。やがて閉経を迎えることとなりますが、この閉経の前後5年、合わせて10年間を更年期といいます。

リュープロレリンは、エストロゲンを低下させる効果があるため、更年期様症状が発現することがあります。

[更年期様症状]



更年期様症状のうち、うつ状態は日々の過ごし方やものの考え方で軽減する場合があります。以下に、生活上の工夫や気持ちの持ち方のコツを紹介しますので、参考にしてください。

自分でできるストレス対処法 20

自分にとって役立つ対処法を思い出して実践する	正しい情報を集める
闘病記などを参考に他の患者さんの対処法を実践してみる	患者会やサポートグループに参加する
身近な家族や友人に気持ちを打ち明ける	心の専門家に相談する
日記を付けてみる	信仰を持つ
自分の気持ちを書き出してみる	自分を責めない
問題点を整理してみる	断る勇気を持つ
病気を忘れる時間を作る	苦しみがずっと続くことがないことを知る
リラックスできる方法を工夫してみる	これまでの人生を振り返る
ユーモアに触れる	自分の役割を考えてみる
1人で思いっきり泣く	自分の行ってきた貢献を考えてみる

明智龍男(名古屋市立大学病院 こころの医療センター診療科部長):がん患者さんの心と体の悩み解決ガイド, 日経BP社, 東京, pp 129, 2007

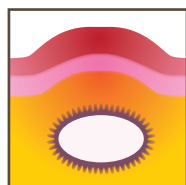
注射部位について

注射後に注意していただきたいこと

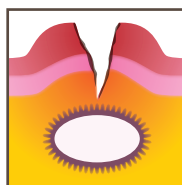
リュープロレリンの成分が体内に入ると、その周囲を組織が取り囲んで「かたまり」を感じることがあります。

この「かたまり」の正体は、体内にとどまっている薬の成分の周囲を組織が取り囲んだものです。

時に、この「かたまり」が赤く腫れ、痛みを伴う場合があります。また、注射部位の皮膚を傷つけてしまうと、まれにですが、膿がたまる場合や、傷が深くなってえぐれたような状態になる（潰瘍化）場合があります。注射部位にこのような異常が認められたら、すみやかに医師や看護師にお伝えください。



発赤



潰瘍化

ご注意ください！

- ・注射部位をこすったり、触ったり、圧迫したりしないようにしましょう。
- ・注射部位をもんだり、掻いたりするのは避けましょう。
- ・注射部位に異常を認めた場合には、すみやかに医師や看護師にご相談ください。



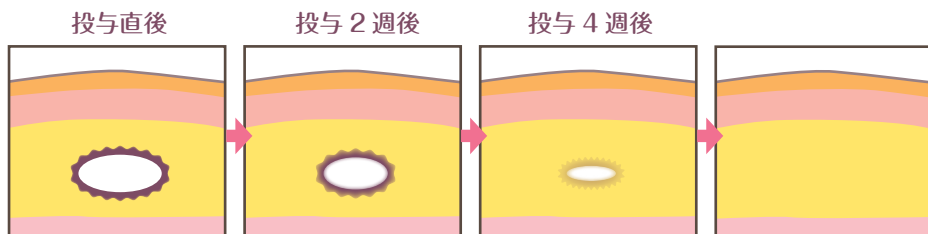
注射部位の変化

リュープロレリンは、マイクロカプセルの中に薬の成分が入っています。

リュープロレリンを皮下に注射すると、マイクロカプセルが溶けて薬の成分が、徐々に放出されるように工夫されています。この工夫によって、リュープロレリンの安定した効果が持続的に得られ、その効果は4週間持続します。

注射部位の「かたまり」は、薬が放出されるに伴って小さくなり、やがて消失します。

リュープロレリン注射後の変化イメージ



個人差はありますが、時間の経過とともに消失します。

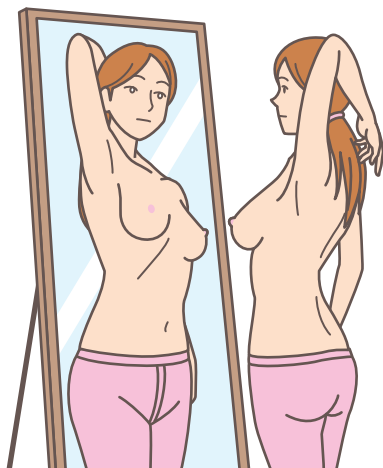
セルフチェック

毎月1回、日を決めて乳房の状態を確認しましょう

乳がんは自分で見つけることのできる可能性が高いがんです。手術した後も、手術部位の周囲や反対側の乳房をセルフチェックすることが大切です。毎月1回、日にちを決めて乳房の状態を確認しましょう。

鏡の前でのチェック

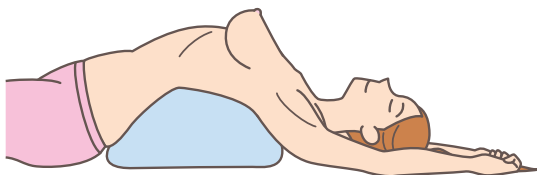
- ① 自然な状態で立ち、両方の乳房に違和感がないかチェックします。
 - 形や大きさ、乳房の位置(高さ)が異なっていないか
- ② 両腕を上げて、正面、横、斜めから乳房を観察します。
 - くぼみや、ひきつれたところはないか
 - 乳首にへこみやかさぶた、湿疹のようなただれがないか
- ③ 乳首を軽くつまんでお乳を搾るようにし、血液のような異常な分泌物が出ないかをチェックします。



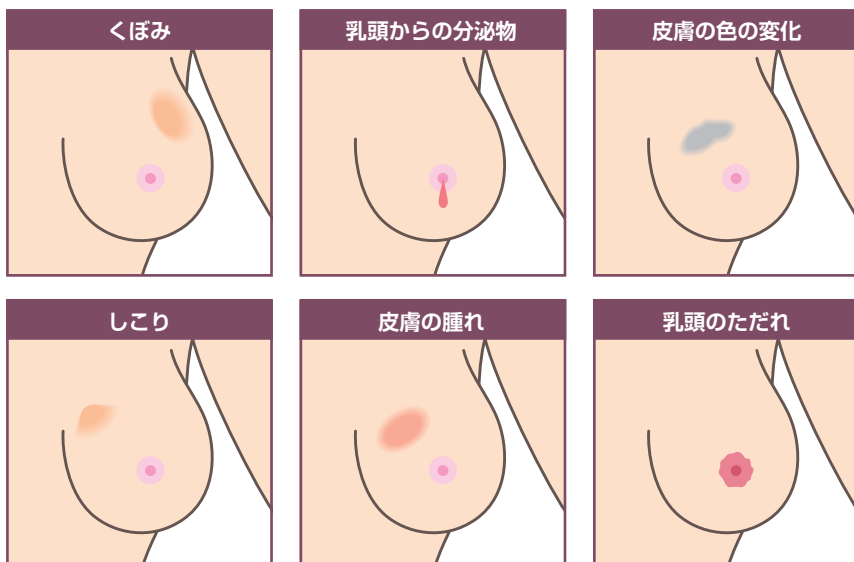
仰向け状態でのチェック

確認する側の肩の下に薄い枕や座布団を入れると調べやすくなります。指の腹をすべらせるようにして、まんべんなく触れ、しこりの有無を確認しましょう。

- ① 確認する側の腕は頭の後方に上げて、乳房の内側をチェックします。
- ② 確認する側の腕は自然な状態におろして、乳房の外側をチェックします。
- ③ 確認する側の腕は自然な状態におろして、わきの下をチェックします。



●特に注意が必要となるサイン



※上記以外にも「皮膚のひきつれ」「乳頭の陥没」などに注意する必要があります。

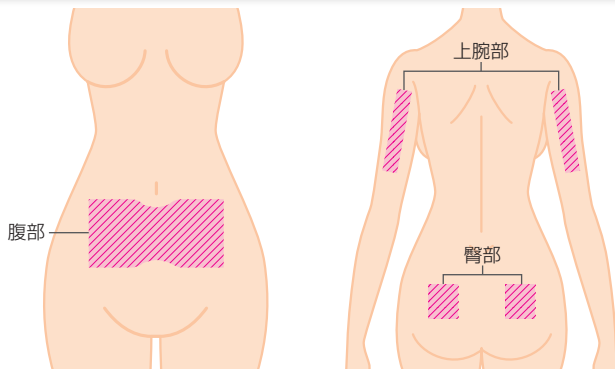
治療スケジュール

注射した日	注射部位			次回の注射日
	上腕部	腹部	臀部	
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日
年 月 日	左・右	左・右	左・右	年 月 日

投与に際してのポイント

皮下注射に適した場所

注射する場所は、上腕部（上腕裏側）、腹部、臀部のいずれかを選べますので、毎回場所を変えてもらいましょう。同じ場所に続けて注射されないように、メモを取っておくとよいでしょう。



気軽に声をかけてください

副作用があらわれる時期や種類、どのような程度かは、患者さんによって異なります。必ずしも副作用が出るとは限りませんが、もし副作用があらわれた場合は、すぐに医師や看護師に相談しましょう。



● かかりつけの病院情報

病院名	
担当医師名	
TEL	

● 緊急連絡先

名前	
TEL	
携帯電話	

